



研究室で

つくばで輝く研究者

HAYASHI Yohei 林 洋平 さん(38)

国立研究開発法人 理化学研究所 バイオリソース研究センター(BRC)
iPS細胞高次特性解析開発チーム チームリーダー 博士(学術)

愛知県出身。東京大学教養学部生命・認知科学科卒業後、同大学院総合文化研究科広域科学専攻博士課程修了。米国グラッドストーン研究所でiPS細胞を研究。帰国後、筑波大学医学医療系遺伝子制御学研究室助教を経て、2018年から理化学研究所BRCでiPS細胞の特性解析と活用促進に向けた技術開発を行う。

《未来を切り拓く》

iPS細胞から作り出されるさまざまな細胞は、移植による再生医療の可能性を飛躍的に高めた。またiPS細胞は、今まで治療の糸口がなかった難病に対して、病態の解明や薬の開発にも活用できる。理研BRCには約300種の難病患者約800人から作製された約3000株のiPS細胞が整備されている。難病の進行性骨化性線維異形成症の病態をiPS細胞で再現し、既存薬から薬効を見出して治療へと繋いだ経験をもとに、今後の革新的治療法の創出



開発チームメンバーと

iPS細胞を用いた 革新的治療法の創出

に向けて研究開発を進めている。「そのためには、大学や研究機関、製薬会社、機器メーカーとの連携は欠かせません。疾患特異的iPS細胞コレクションが広く活用されるようにプラットフォームを構築したい」
《社会貢献を自指して》
愛知県安城市生まれ。中学では野球部、高校では合唱部で活動。オーストリアで行われた国際大会にも出場した。進学した大学の教養課程で生命の神秘に魅かれ、生命・認知科学の道へ。「生物は好きでしたがジャンルにこだわらず、将来は社会に役立つことをしたかった」。大学院で発生生物学を研究する中、iPS細胞による再生医療の可能性に興味を湧いた。研究をさらに深めるため、博士課程修了後の2009年に渡米。グラッドストーン研究所の山中伸弥教授の研究室でiPS細胞を研究する中、2012年に山中教授がノーベル

つくばの暮らし

渡米の時にプロポーズした妻と、2人の子どもたちとつくばに暮らして4年。夏はキャンプ、冬はスキーを楽しむアウトドア派で、つくば市主催の親子マラソン大会にも参加。つくばは東京へのアクセスも良く自然も豊か。家族と暮らすには最適な環境で気に入っています」



市民マラソンに親子で参加

世界のあしたが見えるまち。

つくば市委託事業